

## 2 専門主専攻コースプログラム

不動産学科学生全員に共通する目標は以下のとおりです。

①ビジネス及び社会生活を営む上での素養を身につけること。

不動産学科の求める素養とは、法律文書を読むこと、経済活動を理解していること、社会の視点から思考できること、情報を集め・理解し・発信できることです。

②不動産を総合的に理解する知識を身につけること。

不動産が生活・活動の場であり、投資の対象となる資産であり、都市環境の主要な要素であることを総合的に理解していることが求められます。

これに加えて、特定分野の専門性を培うために、2年次から3つのコースのいずれかを選択し学修していくことになります。コースの選択に当たっては、各コースの概要及び教育課程表等を基に慎重に行うのはもちろんのこと、所定の時期に登録を完了しない場合、当該年度（学期）の履修は認められませんので注意してください。

コース	狙い・進路	カリキュラムの特徴
ビジネスコース	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不動産ビジネスを適切に行うための基本的知識を身につける。特に、不動産の取引や事業経営に必要な法制度、経営手法、不動産の基本情報についての知識を修得する。</li> <li>○不動産の流通・管理・企画部門に加えて、一般企業の営業・企画・管理・法務部門、自治体など公的機関での活躍が期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不動産学の幅広い分野の科目を履修できるようになっているが、特に不動産ビジネス、経営、法律系の科目に主眼をおいて構成されている。</li> </ul>
ファイナンスコース	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不動産金融を理解し、人に説明できるだけの知識を身につける。特に、金融についての基本的知識、金融市場及び不動産市場を理解する力、不動産の投資評価及び不動産金融の特性についての知識を修得する。</li> <li>○金融業、不動産の資金調達部門、一般企業の財務部門、不動産鑑定業、コンサルタント事務所での活躍が期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不動産学の幅広い分野の科目が履修できるようになっているが、特に金融、鑑定評価系の科目に主眼をおいて構成されている。</li> </ul>
デザインコース	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不動産の空間的性質に関する基本的知識を活かしてビジネスに役立てる力を身につける。特に居住スペース・建物・街のデザインや管理についての知識を修得する。</li> <li>○不動産業の企画開発・設計・流通・管理・リフォーム分野、ハウスメーカー、建設業、設計事務所、土地家屋調査士事務所、コンサルタント事務所、自治体など公的機関での活躍が期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不動産学の幅広い分野の科目が履修できるようになっているが、特に建築・都市・不動産管理関連の科目に主眼をおいて構成されている。建築士の受験資格を得るのにふさわしい内容にもなっている。</li> </ul>

## ビジネスコース

ビジネスコース主要科目の標準的な履修年次・学期

年次	学期	授 業 科 目
1 年	通 年	●不動産学基礎演習（4単位）
	前学期	●財産法の基礎 ●建築一般構造論 ●不動産のための数学と統計（4単位）
	後学期	●物権法 ●都市と建築の基本法 ●不動産のためのミクロ経済学（4単位） ●都市計画の基礎 △不動産実務演習<宅建>
2 年	前学期	○担保物権法 ○債権法（4単位） ○不動産のためのマクロ経済学 ○土地と住宅の経済学 ○会計学の基礎 ○不動産政策史 ○不動産流通の制度と市場 ○測量と地図 △不動産実務演習<宅建>
	後学期	■不動産ビジネスゲーム演習 ○借地借家法・区分所有法 ○土地開発と法 ○経営分析 ○都市計画 ○地籍と不動産登記 ○不動産情報処理演習 □ハウジング論 △都市の経済学 △環境と経済
3 年	通 年	△不動産学研究（4単位）
	前学期	□不動産ビジネスと法 □家族と財産の法 □不動産トラブルと法 □不動産経営戦略 □集合住宅管理論 □不動産経営計画
	後学期	■不動産キャリアデザイン □不動産金融と税の法 □環境法 □不動産法の最前線 □不動産鑑定評価論（4単位） □不動産管理演習（4単位） □都市環境と防災 □建築設備 △都市開発と社会基盤
4 年	通 年	●不動産学卒業演習（4単位） △卒業論文（6単位）
	前学期	△建築施工

注意 1 ●：学科共通必修科目（9科目26単位履修） ○：学科共通選択必修科目（14科目30単位から20単位以上履修）

■：コース必修科目（2科目4単位履修） □：コース選択必修科目（14科目32単位から16単位以上履修）

△：選択科目（一部科目のみ掲載） ※（ ）は単位数。記載のない授業科目はすべて2単位。

注意 2 卒業要件単位数及び履修方法の詳細については、「教育課程表」等できよく確認し、間違いのないよう必要な単位を修得してください。

注意 3 授業科目の開講期は変更となることがあります。

## ビジネスコース履修プログラム

科目選択のアドバイス：プログラムを1つ選び、そこに含まれる科目を卒業までに全て履修しましょう。

	不動産流通プログラム	不動産経営管理プログラム	不動産事業プログラム
目的	流通業、すなわち不動産の売買や賃貸の仲介業をイメージしています。早期起業を目指す人に役立つ授業をピックアップしています。	不動産という資産の運用には専門知識が必要な時代になりました。そんな時代の要請に応える知識を獲得できる授業をピックアップしました。	大規模開発、インフラ整備、自分の仕事が地図に残る、そんな仕事をしたい人のために、今すぐではなくとも、必ず将来、役に立つ授業をピックアップしました。
授 業 科 目	□ハウジング論 □不動産ビジネスと法 □家族と財産の法 □不動産経営戦略 □集合住宅管理論 □不動産金融と税の法 □不動産法の最前線 □都市環境と防災	□不動産経営戦略 □集合住宅管理論 □不動産経営計画 □不動産法の最前線 □環境法 □不動産管理演習（4単位） □建築設備 △都市の経済学 △環境と経済	□不動産ビジネスと法 □不動産トラブルと法 □不動産経営計画 □不動産法の最前線 □環境法 □不動産鑑定評価論（4単位） □都市環境と防災 △都市開発と社会基盤 △都市の経済学

※（ ）は単位数。記載のない授業科目はすべて2単位。

## ファイナンスコース

ファイナンスコース主要科目の標準的な履修年次・学期

年次	学期	授 業 科 目
1年	通 年	●不動産学基礎演習（4単位）
	前学期	●財産法の基礎 ●建築一般構造論 ●不動産のための数学と統計（4単位）
	後学期	●物権法 ●都市計画の基礎 ●都市と建築の基本法 ●不動産のためのミクロ経済学（4単位） △不動産実務演習<宅建>
2年	前学期	○担保物権法 ○債権法（4単位） ○不動産のためのマクロ経済学 ○土地と住宅の経済学 ○会計学の基礎 ○不動産政策史 ○不動産流通の制度と市場 ○測量と地図 △不動産実務演習<宅建>
	後学期	○借地借家法・区分所有法 ○土地開発と法 ○経営分析 ○都市計画 ○地籍と不動産登記 ○不動産情報処理演習 □都市の経済学 □環境と経済 □建築史 △ハウジング論
3年	通 年	△不動産学研究（4単位）
	前学期	■不動産金融論（4単位） □不動産ビジネスと法 □家族と財産の法 □不動産トラブルと法 □不動産のための計量分析 □不動産ファイナンス演習（4単位） □不動産経営戦略 □不動産経営計画 △集合住宅管理論 △まちづくり演習（4単位） △不動産実務演習<FP、鑑定>
	後学期	□不動産金融と税の法 □環境法 □不動産鑑定評価論（4単位） □不動産金融分析（4単位） □法と政策の経済学 □不動産数理 △都市開発と社会基盤 △都市環境と防災 △不動産実務演習<FP、鑑定>
4年	通 年	●不動産学卒業演習（4単位） △卒業論文（6単位）

**注意 1** ●：学科共通必修科目（9科目26単位履修） ○：学科共通選択必修科目（14科目30単位から20単位以上履修）  
■：コース必修科目（1科目4単位履修） □：コース選択必修科目（16科目38単位から16単位以上履修）  
△：選択科目（一部科目のみ掲載） ※（ ）は単位数。記載のない授業科目はすべて2単位。

**注意 2** 卒業要件単位数及び履修方法の詳細については、「教育課程表」等によく確認し、間違いのないよう必要な単位を修得してください。

**注意 3** 授業科目の開講期は変更となることがあります。

## ファイナンスコース履修プログラム

科目選択のアドバイス：プログラムを1つ選び、そこに含まれる科目を卒業までに全て履修しましょう。

	不動産金融プログラム	不動産評価プログラム	不動産政策プログラム
目的	不動産金融に関する基本的な知識に加え、資金調達及び資産の運用を検討するために必要な知識を身につけることを中心にした履修プログラム	不動産金融に関する基本的な知識に加え、不動産の収益力と価値を評価する力も身につけることを中心にした履修プログラム	不動産金融に関する基本的な知識に加え、不動産市場及び関連する金融市場の整備など、不動産政策の変遷と現状、政策の理論的な位置付けを学ぶことを中心にした履修プログラム
授 業 科 目	□不動産ビジネスと法 □不動産のための計量分析 □不動産ファイナンス演習（4単位） □不動産数理 □不動産金融と税の法 □不動産鑑定評価論（4単位） □不動産金融分析（4単位） △不動産実務演習<FP>	○土地開発と法 □建築史 □不動産ビジネスと法 □家族と財産の法 □不動産経営計画 □不動産鑑定評価論（4単位） □不動産金融分析（4単位） △不動産実務演習<鑑定>	○土地開発と法 □都市の経済学 □環境と経済 □建築史 □不動産経営戦略 □不動産経営計画 □不動産金融と税の法 □環境法 □法と政策の経済学 △都市開発と社会基盤 △都市環境と防災 △ハウジング論 △集合住宅管理論 △まちづくり演習（4単位）

※（ ）は単位数。記載のない授業科目はすべて2単位。

## デザインコース

デザインコース主要科目の標準的な履修年次・学期

年次	学期	授 業 科 目
1年	通 年	●不動産学基礎演習（4単位）
	前学期	●財産法の基礎 ●建築一般構造論 ●不動産のための数学と統計（4単位）
	後学期	●物権法 ●都市計画の基礎 ●都市と建築の基本法 ●不動産のためのミクロ経済学（4単位）
2年	前学期	○担保物権法 ○土地と住宅の経済学 ○不動産流通の制度と市場 ○債権法（4単位） ○会計学の基礎 ○測量と地図 ○不動産のためのマクロ経済学 ○不動産政策史
	後学期	■デザインの基礎 ○土地開発と法 ○地籍と不動産登記 □都市の経済学 ■建築計画Ⅰ ○経営分析 ○不動産情報処理演習 □建築史 ○借地借家法・区分所有法 ○都市計画 □ハウジング論
3年	通 年	△不動産学研究（4単位）
	前学期	□不動産ビジネスと法 □集合住宅管理論 □設計製図A □地理情報システム（4単位） □家族と財産の法 □不動産経営計画 □建築材料学 □不動産トラブルと法 □まちづくり演習（4単位） □構造力学Ⅰ
	後学期	□都市開発と社会基盤 □住宅地計画実習 □不動産管理演習（4単位） □建築設備 □建築環境計画
4年	通 年	●不動産学卒業演習（4単位） △卒業論文（6単位）
	前学期	□建築施工

注意 1 ●：学科共通必修科目（9科目26単位履修） ○：学科共通選択必修科目（14科目30単位から20単位以上履修）

■：コース必修科目（2科目4単位履修） □：コース選択必修科目（19科目44単位から16単位以上履修）

△：選択科目（一部科目のみ掲載） ※（ ）は単位数。記載のない授業科目はすべて2単位。

注意 2 卒業要件単位数及び履修方法の詳細については、「教育課程表」等でよく確認し、間違いのないよう必要な単位を修得してください。

注意 3 授業科目の開講期は変更となることがあります。

## デザインコース履修プログラム

科目選択のアドバイス：プログラムを1つ選び、そこに含まれる科目を卒業までに全て履修しましょう。

	住宅マネジメントプログラム	空間プランニングプログラム	建築デザインプログラム
目的	多様で変化し続ける住宅需要に応えるための不動産経営、管理を担うプロパティマネージャに。 マンション管理士、管理業務主任者などの資格を目指す人に最適な履修プログラム	地域、土地、建物のプロフィールを収集、分析し、不動産プロジェクトに結びつける不動産アナリストに。 測量士、土地家屋調査士の資格を目指す人に最適な履修プログラム	住宅、商業空間のインテリアから再開発プロジェクトまで幅広いスケールの空間デザインを方向付ける不動産プロデューサーに。 建築士を目指す人に最適な履修プログラム
授 業 科 目	□ハウジング論 □建築設備 □不動産ビジネスと法 □集合住宅管理論 □不動産経営計画 □建築材料学 □不動産管理演習（4単位）	□都市の経済学 □家族と財産の法 □不動産トラブルと法 □まちづくり演習（4単位） □地理情報システム（4単位） □都市開発と社会基盤	□建築史 □建築設備 □設計製図A □建築施工 □建築環境計画 □構造力学Ⅰ □建築材料学 □住宅地計画実習

※（ ）は単位数。記載のない授業科目はすべて2単位。

さらに以下の科目の履修も薦めます。

科目	△環境法 △建築CAD演習	△都市環境と防災 △建築計画Ⅱ	△インテリアデザイン演習 △設計製図B	△建築環境デザイン △不動産実務演習<建築>
----	------------------	--------------------	------------------------	---------------------------

## 1. 建築士試験受験資格は修得科目によって異なります。

- ①建築デザインプログラムに沿って履修した場合は、実務経験年数2年以内で2級・木造建築士試験の受験資格が得られます。
- ②実務経験なしで受験したい場合、一級建築士試験の受験を目指す場合は、指定科目一覧に従って適切な科目を履修するようにしてください。
- ③住宅マネジメントプログラムや空間プランニングのプログラムに沿って履修する場合も、併せて適切な指定科目を履修することで、建築士試験の受験資格を得ることができます。

参照→P.131「建築士（一級・二級・木造）試験受験資格」

## 2. 商業施設士補の申請に必要な所定の単位について

所定の単位を修得することで、大学からの推薦により商業施設士補の資格認定申請を行うことができます。

参照→P.130「商業施設士補申請手続」

### [1] 専門主専攻 コース登録

各コースには、開講される授業科目の性質や設備の関係上、定員が定められています。

コース	定員	備考
ビジネスコース	90名	定員の数は目安とし、3年次編入学生を除きます。
ファイナンスコース	70名	
デザインコース	90名	
計	250名	

### [2] 専門主専攻 コース変更

ア 原則として、コース登録後の変更は認められません。ただし、3年及び4年次の所定の時期に願い出て許可を得た場合に限り、変更することができます。詳細については、別途掲示等で指示します。

イ 変更は、変更の事由、当該コースの定員、成績及び単位の修得状況等を勘案し、学部長がやむを得ないと判断した場合に許可されます。